

原・浮島をめぐる

原・浮島の地は北に日本一高い富士山を仰ぎ、南に日本一深い湾・駿河湾を臨む風光明媚な自然の楽園。季節の動植物にあふれ、また歴史浪漫を感じられる名刹や名所旧跡が点在します。このマップ片手に出かけてみませんか。きっとステキな出会いが待っています。

原・浮島の特産品

温暖で気候のよい原・浮島には美味しい名産がいっぱい。ぜひご賞味ください。

左から沼津愛鷹茶、野菜、あしたか牛、沼津市・原の地酒



富士のお山と並び称された、江戸時代の名僧・白隠禅師ゆかりの名刹。禅の教えを今に伝える。

原・浮島ぐるりMAP き-H 19 松蔭寺と白隠さん

白隠宗の大本山。開創は鎌倉時代弘安年間、1280年頃。江戸時代に名僧・白隠慧鶴が住職を務めた寺として知られています。白隠禅師が住職となったのは享保2年(1717)、その後松蔭寺には修行者ももちろん、在家の多くの人々が訪れたことが知られています。白隠禅師が岡山藩主池田侯より贈られた備前焼の播り鉢を台風で折れた松の枝にかぶせたという「播り鉢の松」がありましたが、枯死したことから伐採されました。山門は木造、石瓦葺き、切妻造りの平屋建て。108枚の石瓦で葺かれた屋根は煩悩をここで止めよと云われる仏教の教えであり、全国でも珍しい国の登録有形文化財に指定されました。

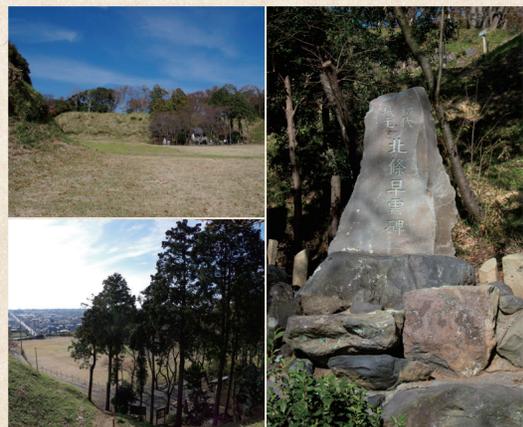
五百年に一人と言われるほどの僧・白隠禅師。「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」とうたわれるほどの名僧です。原宿の長澤家に生まれ、15歳で出家し諸国を行脚。修行を重ねて原宿に戻ると、松蔭寺を拠点に当時、禅の神髄を見失っていた臨済宗を復興させ、中興の祖と呼ばれるようになりました。臨済宗の全四派は、今でも全ての派が白隠禅師の禅と教えを伝えています。白隠禅師は禅画の作者としても世界的に著名で、個性的な達磨をモチーフにした禅画は特に広く知られています。



駿河の国を守る要。北条早雲、旗揚げの城。

原・浮島ぐるりMAP う-G 7 興国寺城跡

興国寺城は伊勢新九郎(後の北条早雲)が姉婿・今川義忠の戦死後、今川家の家争いを鎮めた功績により、東駿河に領地を得て与えられた城です。1493年に伊豆へ攻め入り、さらに相模を攻略し小田原北条氏の基礎をつくったことから、興国寺城は早雲旗揚げの城と呼ばれています。愛鷹山を後ろに、前に深い堀を持った城は駿河の国を守る要の城であったと言われます。最後の城主・天野康景は1607年、天領の百姓を斬殺した家臣引き渡しを拒んで出奔してしまつたため改易され、城は廃城となりました。



源氏盛衰、義経の兄・阿野全成ゆかりの地。

原・浮島ぐるりMAP う-E 4 大泉寺

曹洞宗。東井出でひときわ緑が深い古刹。ここは阿野全成ゆかりのお寺として有名です。源頼朝の異母弟で、義経の兄・今若丸、後の阿野全成は頼朝拳士の傘下に加わり、その功績により駿河国阿野荘(沼津市今沢から富士市吉原にかけての範囲)を賜ります。しかし1203年、謀反の疑いをかけられ、反北条の兵を挙げましたが、破れ捕らえられて常陸国に流され殺されました。その子の時元もまた拳兵しますが、志空しく愛鷹山中で滅ぼされます。大泉寺は阿野氏の館跡で、全成・時元父子の墓(市指定史跡)があり、首掛け松や銀杏観音の伝説が残っています。



旧石器時代から古墳時代の面影を歩く。

原・浮島ぐるりMAP う-E 2 井出丸山古墳 井出丸山遺跡

愛鷹山の南、井出古墳群と石川古墳群との間に広がる尾根の先、標高42mのところ「丸山古墳」があります。平成4年に発掘調査を行なった際には、一部墳丘が壊されていましたが、横穴式石室をもつた円墳であることがわかりました。直径15mの円墳で、石室は南に開口、全長6m、幅1m、高さ1mの無袖式で、床には襦が敷かれていました。石室の奥と手前には二か所に掘り起こされた跡が確認され、一部の副葬品は失われていましたが、石室からは副葬品として、須恵器、耳環、切子玉、管玉、ガラス玉、刀、鉄ぞくが発見されました。この古墳は、この地域の有力者の墓であると考えられ、古墳時代後期(6世紀後半、今から約1400年前)に造られたと推定されています。また日本最古級と言われる「井出丸山遺跡」は約38,000~40,000年前の旧石器時代の遺跡であり、「浮島の宝」として、他の地区にはない貴重な史跡です。もともと弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡と考えられていました。しかし発掘を進めると、深い地層の下からは旧石器時代の石器などもたくさん発見されました。



原・浮島の花

四季折々の花が咲き誇る当地では、豊かな水に育まれた貴重な植物群落と美しい風景、動物や昆虫の観察も楽しめます。



原・浮島の鳥

浮島ヶ原一帯は「野鳥の楽園」と呼ばれ、バードウォッチングのポイントとしても人気で希少種の撮影や観察にも適します。



原・浮島に遺る名刹と名園

原・浮島ぐるりMAP き-G 15 徳源寺

臨済宗妙心寺派。北条時宗の護国寺として開かれたお寺です。源頼朝が富士の巻狩の際に陣屋をおいた所と言われています。境内には「頼朝お手植えの松3代目」とされる松があり、庭には植松家の「帯笑園」の遺構の一部が移されています。白隠禅師は14歳の頃、ここで古典の素読、読み書きを習い、短期間で「句双紙」を暗記しました。この頃から出家への思いが高まりました。子供の無事成長を願う名を書いた幟を立てる子安地蔵大祭は5月。



原・浮島ぐるりMAP き-G 17 帯笑園

原の素封家・植松家が江戸時代後半から昭和初期まで代々伝えた庭園。シーボルトをして「今迄日本に見たものなかで最も美しく」と言わしめた名園。珍しい植物の陳列と当時としては希少な温室を備えた植物園で、茶室からは庭と富士山の眺めを楽しめました。皇族や、伊藤博文など明治の元勳、大勢の大名や公家、文人墨客が訪れました。平成24年には国の登録文化財。月に一度見学ができます。(お問合せ:大沢さん090-6761-3267)



原・浮島ぐるりMAP き-H 20 長興寺

臨済宗妙心寺派。室町時代、友獄和尚が行脚中、原の浜の海の響きに感応道交し一堂宇を建立したものと伝えられています。一時は火事や高潮で荒廃しますが、白隠禅師の道友・大義和尚によって再建され、全国各地から集まってくる修行者たちの宿坊として使われました。「駿河の金毘羅さん」の愛称で親しまれ、祭典には赤ちゃんの健康と無病を願う「赤ちゃん泣き相撲」が奉納されます。



原・浮島ぐるりMAP き-H 21 清梵寺

臨済宗妙心寺派。旅の途中で亡くなった得萬長者を弔うお寺で、尼となった妻が休んだ綱元の綱に長者の朝夕拝んだ地藏菩薩がかかったことから、力を合わせお堂を建て安置しました。原のお地藏さんとして広く知られ、本堂正面には白隠禅師筆の「願王閣」の扁額、本堂内には山岡鉄舟筆の「願王殿」の扁額があります。年一回7月の地藏菩薩縁日には白隠禅師の「地獄極楽変相図」が公開されます。



原・浮島ぐるりMAP 原の海岸線

駿河湾の北岸はゆるやかな弧を描く広大な浜。千本浜から続く風光明媚な海岸線は10kmにも及び、松林越しに眺める富士山の美しさは格別。堤防ではこの景色を愛でながらのウォーキングやジョギング、サイクリングも人気。松林の中には遊歩道も整備されています。また急深の地形から釣りのメッカとして、毎年6~7月ごろのシーズンには青物と呼ばれるサバやイナダが釣れ、浜に釣り人が並びます。



沼津港

原・浮島から車で約20分ほどで豊富な魚種と漁獲高を誇る沼津港へ。市場では毎朝セリが開かれ、新鮮な魚介や名物の深海魚を食べられる飲食店も軒を連ねます。土産処や深海水族館など、いつでも多くの観光客にあふれ、賑わいに満ちた場所です。



戸田地域との連携

平成17年(2005)戸田村と沼津市の合併により、駿河湾をはさんだ戸田地域と原・浮島との連携・交流もより深まりました。戸田の名産である、世界最大と言われるタカアシガニや深海魚、戸田塩などを活かし、沼津商工会では更なる情報提供や多彩に広がる人的ネットワークで、双方の個性や特徴を最大限に活かし、総合的な未来像を描いていきたいと考えています。

